

行く年や 何買うでなく 黒門へ 一平

新年に いつもおもうが ままならす 藤

そばよりも あなたの傍で 年を越す 政

ひと花新聞

第 77 号

令和元年 12 月 1 日
 発行・NPO 法人釜ヶ崎支援機構
 ひと花センター
 〒557-0002
 大阪市西成区太子 1-13-15
 電話・06-6649-7890



こども対大人の綱引きは大人が負け！

子供の里へ
 さてもういよした
 望まぬ年がくれば
 一年の別になる
 いると心はつら
 一のコ片にかつ
 りのりていよした
 とわくすの
 つかい
 思ひ出
 思ひ出



『こどもの里運動会』でのボランティアの様子。
11 月は地域児童との交流が続いた月でした。

招待された『わかくさ保育園焼いも会』での様子。
焼いもおいしかったです。



今年が 12 月になりました。
 毎年一年が早く感じられず、
 去年食堂の手紙を受け経過
 観察中ですが無事に新年を向え
 ることが出来そうです。去年の 12 月の
 拝句で残章にも感謝しつつ大晦日
 と暮らさましたが今年もそうのうら
 令和二年の目標を掲げて自分に厳しく
 やってゆきたいと思っております。
 古なバ

今日の出逢いも体験する
 今日の出逢いも体験するの時に
 ヒロさんが来てくれた。まさか本当に
 来てくれたと思っていなかった。本当に
 嬉しかった。有りかと思ってい
 その時の誰かが龍神さんの人はどう
 あるべきか。人は支え合って生きている。
 と言う話が心に残り続いた。
 人は皆持つ持つ持たれつ生きている。
 ヒロさんの話しや皆が話しでこの時は
 先生とよくめて大変盛り上がり
 人間は原点も忘れられらあかん
 思ひます。心も無いです。事で
 今更に見えなれた物は何も見えて
 来るかも知れずです。
 人間で有りたと思っております。
 温かい心が和む 路木カネ子 100 歳
 政

『ほっこり体操』で屋外に出掛けた時の様子。
「五感で感じる」を体験するため、
普段見慣れた庭を目隠して歩く試み。



ほっこり体操、エメ先生。

『今日の出逢いを体験する』の
ヒロさんが参加した回の様子。



バルマークボランティア実施中。
 バルマークはひと花センターへ。

※ ひと花センターは、西成区単身高齢者生活保護受給者の社会的つながり事業として、平成 25 年からスタートしています。

コート着てマフラー丸めて 通天閣へ

花水木

枯れ草にもうひと花と 気合い入れ なべさん

部屋ごもり 酒盃重なる冬ごもり 赤鬼

あたたかきひらめたきたき冬ごもり シーター

しばらくお休みされていたメンバーも久々に。



『演劇ワークショップ』でサンタクロースを演じた方々。居合わせたみんなの涙を誘う熱演があったとか…。



酔老癩記

(赤鬼)

二三ヶ月ぶりのひと花参加!!
腰痛持ちの老人は
杖をたっつ、雪中の中
息を絶え、くによやく
通りついた。ひと花参加は
やはり、ぬいぬい、明りいよ
旧知の会口見と人、此向ス
方をかけゆくぬい。
すあまた、いと花リ、人
足を、道行く、読者の
此向ス人、白正、冬、加を。

天下茶屋周辺で頑張った人たち。



ひと花でお留守番してます。

駅周辺のプランターは春に向けて、これから植え替えが始まります。

私のよもやま話

私の母親の里は徳島県の脇町から5キロ位、山を超えた小さな、集落で、隣り近所まで1キロ位で、所どころに民家があります。が、ほとんど皆親戚です。郵便配達員がお茶して、昼ご飯食べて行く様な、所です。今では、道路もアスファルトで道幅も広いが、昔は、狭い道に、カヤとか木が生い茂って、昼でも、薄暗く女の人、一人で歩け無い、様な所に小さな、小学校があつて遠い子供は、7キロ位歩いて通っていたそうです。一年生は、六年生の授業が終わって一緒に帰るのですが、秋の日の暮れは、帰り道は、真っ暗闇で皆、提灯行列で帰るその灯りが、草の間から、見えたり、隠れたり、火の玉に見えて、年寄りの婆さんが腰抜かして寝込んでしまったと言う嘘くさい本当の、話があります。実はそれは、私の叔母でした。親戚の皆さんに冷やかされて、良く怒ってました。気のいい優しい叔母も、亡くなって13回忌です。今では、スクールバスも通って、美馬市になり開けた町になっています。一度ゆっくり墓参りに行こうと思います 桐井でした。



農園で育てた今季の最後のニンジンの収穫。100円食堂のシチューになりました。



『散歩の会』で「咲くやこの花館」を訪れました。



数人がウォークラリーにチャレンジしましたが景品は貰えませんでした。

おおきなおおきむ 外を出でてまわりを見て

中沢

冬の朝 地面に霜柱 ささ嬉し 信仰

ひと花カフェ

十月十日 葉ご飯とふりかけ

十月十四日 中津井 オリーブサラダ

十月十八日 ちんねん

十月二十三日 カレシメ

昭和58年一代の名優、片岡千恵蔵が逝去した。映画俳優としては、最初で最後だろうか、東映での社葬となった。千恵蔵は、火宅の人だった。晩年の何十年かは京都の本宅には帰らず、愛知県で愛人と暮らした。告別式の日、愛人の懇願により、その遺骨は京都の本宅と愛知県の別荘に分骨された。ゆえにその墓は京都と愛知県にある。撮野所のスタッフや後輩俳優に受けが良かったのは、圧倒的に愛人の方であった。片岡千恵蔵の命日には、愛知県に出向き、お線香を供えていた……

餅ベッタンのどにつまんでコックンチョコ うえの

※ 次回の 100 円食堂は 12 月 21 日 (土) 12:00~16:00 です。お手伝い大歓迎! お待ちしております。